第３回ゆくはし国際公募彫刻展
―ゆくはしビエンナーレ 2021―

YUKUHASHI BIENNALE 2021

市民賞＆子ども大賞を選ぶ 市民投票を行います

２年に一度、彫刻作品の公募を行っている「ゆくはしビエンナーレ」。１次審査を通過した入賞作品５点の等身大頭部像とマケット（小型の模型彫刻）をリブリオ行橋とコスメイト行橋で展示し、市民の皆さまの投票により「市民賞」と「子ども大賞」各１点を決定します。市民賞の受賞者には賞金 20 万円、子ども大賞にはトロフィーが贈呈されます。ぜひ作品を間近で見て、お気に入りの作品を投票してください。お待ちしています。

■開催期間 / 場所

＊８月１日（土）～９月 30 日（水）
リブリオ行橋

＊ 10 月２日（金）～ 11 月３日（火・祝）
コスメイト行橋

■問合せ：ゆくはし国際公募彫刻展実行委員会事務局
TEL 23-0032

★応募者の中から抽選で 10 名様に図書カードをプレゼントします

vol.10

「末松謙澄はすごい！すごい？」

末松 謙澄（けんちょう）
（1855 ～ 1920）

郷土の偉人「末松謙澄は偉大で、すごい人である。」と、よく聞かされる。ほとんどの人は「へえー、そうなんだ。」で終わってしまう。実は私もそのうちの一人である。「すごい人なんだね。」と返答するものの、実際はどれだけすごい人なのかは分かっていない。そこで自分なりに具体的にみていこうと思う。

一例を挙げると明治 12（1879）年に英文の論文「成吉斯汗（じんぎすかん）」で源義経が大陸に渡って大征服者の成吉斯汗になったことを発表し、３年後の明治 15 年にロンドンのトリュブナー社から『源氏物語』253 頁の英訳を出版している。さらにすごいのは、この年の明治 15 年には『支那古文学略史（しなこぶんがくりゃくし）』（上）（下）２巻本を出版していることである。わずか３年ほどの間に日本史・文学・中国史という全く異なる分野を相次ぎ出版、発表していることである。

だがまだまだこれだけで終わらない。翌明治 16 年に『ギリシャ古代理学一斑』、『ギリシャ古代哲学一斑』と理学、哲学の２著を出版している。さらに３年後の明治 19 年に帰国し、内務省参事官を勤め、『青萍詩存（せいひょうしぞん）』という詩集を発表している。翌明治 20 年４月に「天覧歌舞伎劇」の演出まで手掛けている。

晩年には長州藩を中心とした維新の記録の『修訂・防長回天史』全 12 巻を出版している。漢詩はもとより、文学、中国史、理学、哲学、日本史、法律、演劇、美術まで何でもありのスーパーマンと呼ぶべきであろう。しかも手八丁口八丁とは違い、ほんの少しかじるだけではなく、全精力・情熱を傾けてその時々の仕事をしている。

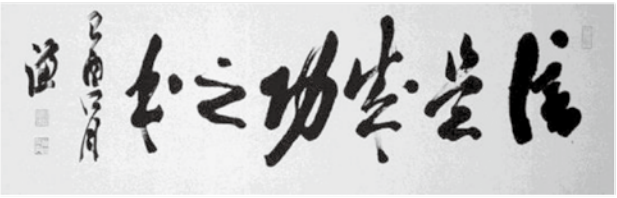
そうした全精力・情熱は、一体どこから来ているのか。どのようにして備わったのか。

子どものころから鼻っ柱が強く、強情で、腕白坊主、そしてある時寝ている間にこっそりと頭を剃ったところ腹を立てて薄暗い納戸に入り込んで出てこなかったという話が伝わっているように、相当に頑固、剛情な性格な持ち主であったと言える。

54 歳の時に書いた扁額『信是成功之本』（これ信ずることは成功の本元なり）は、謙澄自身の信念を表したものであろう。

小・中・高校・大学生ならびに若い人たちにも末松謙澄のように勇気を持って、自分を信じ、信念を貫き、未来を切り開き、活気溢れる明るい行橋の街にしてもらいたいものである。

（文化人末松謙澄を考える会　宇野愼敏）



▲扁額「信是成功之本」末松謙澄直筆